

グランド現代百科事典

Grand Gendai

29

ヤシチーリツフ

学研

グランド現代百科事典

Grand Gendai

29

ヤシチーリツフ

1983年 6 月 1 日 改訂新版第 1 刷発行
1984年 2 月 1 日 改訂新版第 2 刷発行

全巻セット定価 218,000円

編集・発行人——鈴木泰二

発行所——株式会社学習研究社(学研)

東京都大田区上池台4-40-5 〒145

電話 東京(03)720-1111 (大代表)

振替 東京8-142930

印刷——凸版印刷株式会社

表紙クロス——東洋クロス株式会社

ケース見返し用紙——富士共和製紙株式会社

本文用紙——三菱製紙株式会社

箔押——有限会社斎藤商会

製本——凸版製本株式会社

製函——高田紙器工業所

©GAKKEN 1983

*本書内容の無断複写を禁ず

*この本に関するお問合せ、製本上のミスなどが
ございましたら、下記あてにお願いいたします。

文書は 東京都大田区上池台4-40-5 (〒145)

学研・ユーザーサービス部「グランド現代百科」係

電話は 東京 (03) 720-1111 (大代表)

本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の
1地形図、20万分の1地勢図を使用して調製したものである。

Printed in Japan

161 279

ISBN4-05-150104-3

◆ 別 刷 目 次

《巻頭口絵》 ● 邪馬台国	● 郵便切手…………… 201
● 蘭(ラン)	● ヨーロッパ…………… 289
《別 刷》 ● 弥生文化…………… 101	

華やかな洋ラン，雅趣に富んだ東洋ラン

構成と文／唐沢耕司・黒崎陽人・合田弘之

ラン科植物には、華麗な花を咲かせる洋ランと俗称される一群と、落ち着いた雰囲気を出す東洋ランと俗称される一群とがある。

洋ラン栽培とその改良は、1800年代にイギリスの貴族間の趣味として始まり、アメリカ合衆国などの外国に渡って次第に一般化しつつ急速に進歩した。ラン科植物の特徴の1つである属間交雑が可能なことも助けとなって、今日見られる豪華な花を咲かせる品種が多数でき上がった。この改良の世界じゅうの歴史は、1か所に記録され、新しい改良のための助けとなっている。一方、東洋ランは中国と日本を中心に分布するランが園芸化されたもので、その栽培は日本では江戸時代より盛んになった。落ち着いた花の美しさ、気品のある草姿と香りが相まって、われわれを幽玄の世界に誘いこむ。

洋ランのロックガーデン 中南米産系統の品種が岩石によく活着し、カトレヤ類を中心に咲き競っている。撮影協力／広島市立植物公園





■洋ランの多彩な美しさ

ランの原種は2万種にも及ぶといわれるが、花形や草姿は、一属中においてさえ多様で千差万別である。これは他科の植物には見られないことで、独特な味をもった花の美しさとともに、原種収集上の大きな魅力である。

洋ランは飽くことなく品種改良され、原種からは予想もできなかったような、色彩の豊富な、花径の大きい、花形の整った立派な交配種が作出されている。

●カトレヤ・シンビジウム

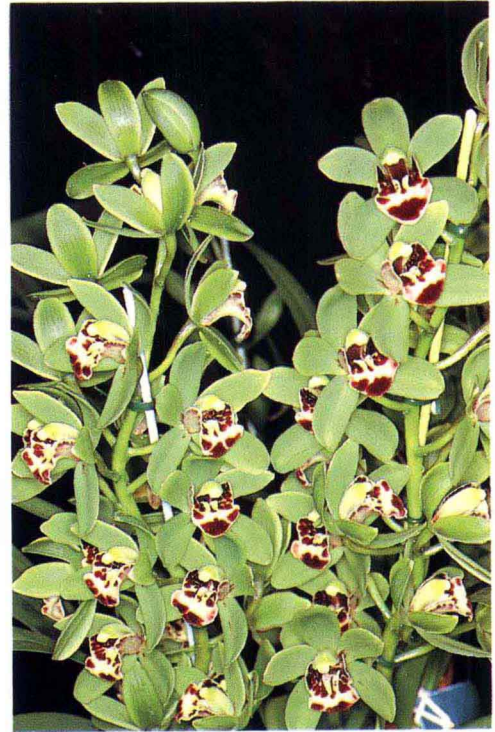
カトレヤは、洋ランを代表する最も華麗な属で、中南米原産。1818年ブラジルでラピアータが発見されて以来、種間・属間交雑により改良された。属間雑種を含めカトレヤ類と総称される。

シンビジウムの原産地は、インド・東南アジア・オーストラリアなどにわたる。東洋ランはこの属の一部。種間交雑によって改良され、属間雑種はない。花命が永く、日本の気候風土に適するので、洋ラン産業上重要である。

(上) ソフロレリオカトレヤ バレザック‘ビリー マイルス’ 3属間雑種。濃赤色系の代表的整形花。

(下) ブラソレリオカトレヤ スーザン ストロムスランド 3属間雑種。柔らかい色彩の中大輪黄色品種。





(上右) ポチナラ ダーク アイズ 'オラ フォ
ルベス ウィッカム' 4 属間雑種の名花。

(上左) カトレヤ アベ マリア 'エンジェ
リカ' 大輪・白色の名花。春咲きの強健種。

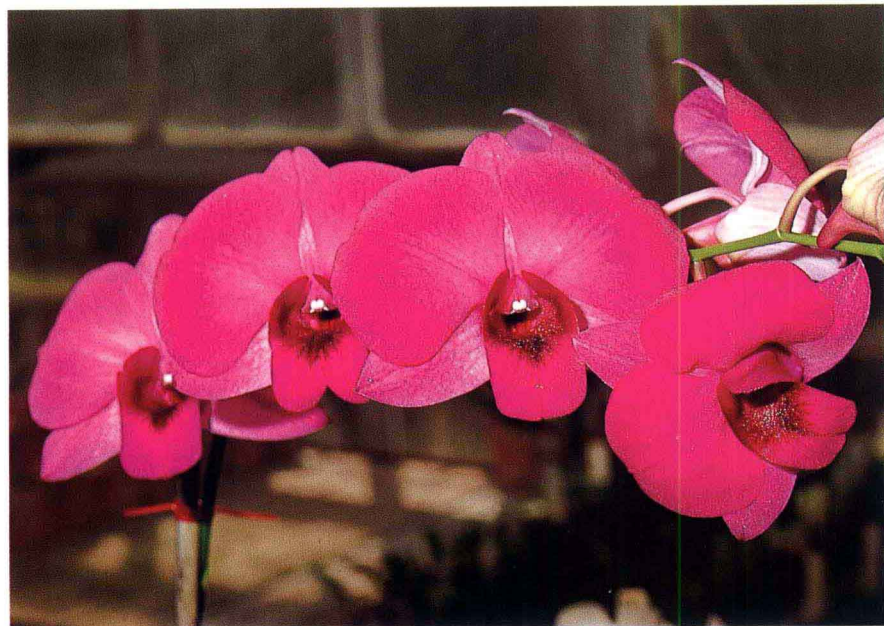
(下右) シンビジウム ジル 'グリーン スタ
ー' これほど濃く鮮明な緑は少ない。鉢物用
小形種。

(下左) シンビジウム グレイト ワルツ 'マ
イ フェア レディー' 早咲きで、鉢物・切花
兼用の中形種。

写真/国際園芸

●デンドロビウム・パフィオペジラムなど

デンドロビウムは、インド・東南アジア・オーストラリアなどに産する。ノビル系(低温性)・デンファレ系(高温性)と称する種間雑種の2大系統がある。パフィオペジラムは、インド・東南アジアなどに産する地生ランで、色彩はやや地味であるが花命が永い。雑種は種間雑種のみである。オドンチオダは、オドントグロッサム(中南米産)とコクリオダ(南米産)の属間雑種で、オドントグロッサム類と総称されるものの1つである。

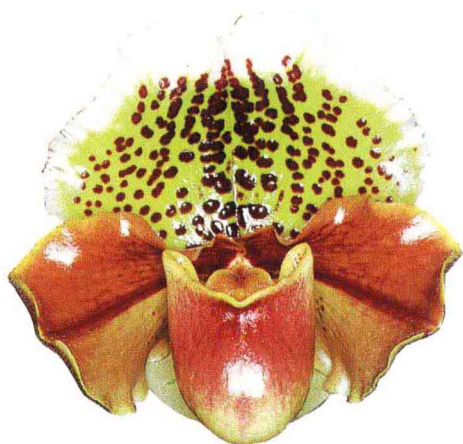


(上右) デンドロビウム ユキダルマ 'キング' ノビル系。唇弁の目が印象的な白色系名花。

(上左) デンドロビウム ゴールデン ウェーブ 'No. 1' ノビル系。黄色系有名品種。草姿はやや大柄。

(下) デンドロビウム レディー ハミルトン 代表的な形をしたデンファレ系濃色整形花。

写真/二村次郎・国際園芸



(右上) パフィオペジラム オーセラ'チルトン' 赤色系では最も整形な最高名花。強健品種。
 (右下) パフィオペジラム ロスチャイルジアナ ホルネオ・ニューギニア産原種。
 (左上) パフィオペジラム コッケード'チルトン' 紫褐色斑点が鮮明な点花系代表品種。
 (左中) パフィオペジラム トミー ヘインズ'アルセア' 黄色系中の最高名花。強健品種。
 (左下) オドンチオダ トリクソン'タカノ' 2 属間雑種。花命は永いが、やや暑さに弱い。



●ファレノプシス・バンダなど

ファレノプシス(別名コチョウラン)とバンダは、ともに東南アジアなどに産する着生ランで、多数の属間雑種がある。栽培にはやや高温を必要とするが、利用度が高く、産業的に重要な洋ランである。

洋ランには、これまでに挙げた属以外に多数の重要な属があるが、ここでは多くの交配種をもつ中南米産の主要な4種を取り上げた。

(上) ファレノプシスの一品種 最も完成された形の大輪種。白花はファレノプシスの代表。

(左) ファレノプシス ビオラセア ホルネオ産原種。葉にも光沢あり、交配親としても重要。

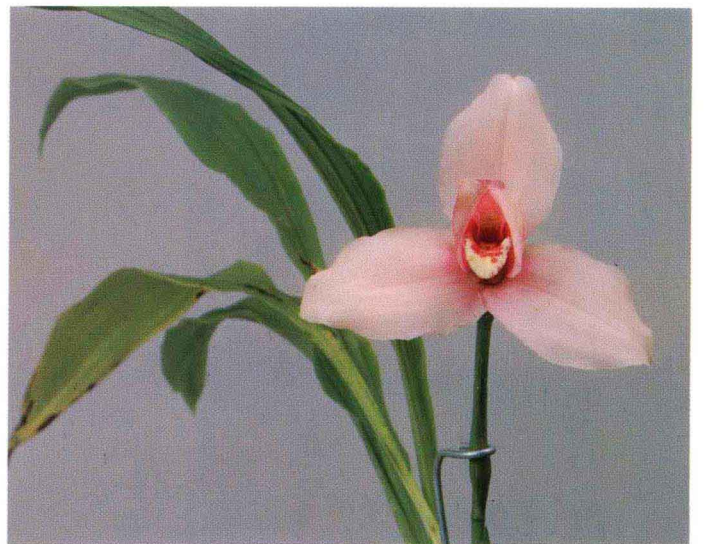
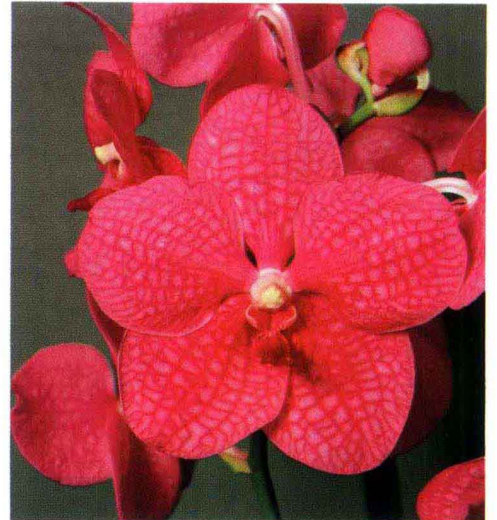
(下) ファレノプシス カーニバル'タカツ' 紅色の点が鮮明で、均一に入っている。





(上右) バンダ パイロート 'ローヤル パープル' 全花同一色で、濁りがなく色彩鮮明な整形花。

(上左) バンダ ゴードン ジロン 濁りのない色彩の良花が多数咲いた名交配種。



(中右) リカステ スキンネリ グアテマラのやや高地に産する原種。純白色の花もある。
(中左) オンシジウム マクロベタラム ブラジル産原種。多花性で花弁と唇弁が同形。
(下右) レリア ルベストリス ブラジル産原種。小輪多花性の交配親としても使用。
(下左) ミルトニア ジャン サブーラン 'バルケーン' 花茎の丈夫な濃色花。やや晩生。

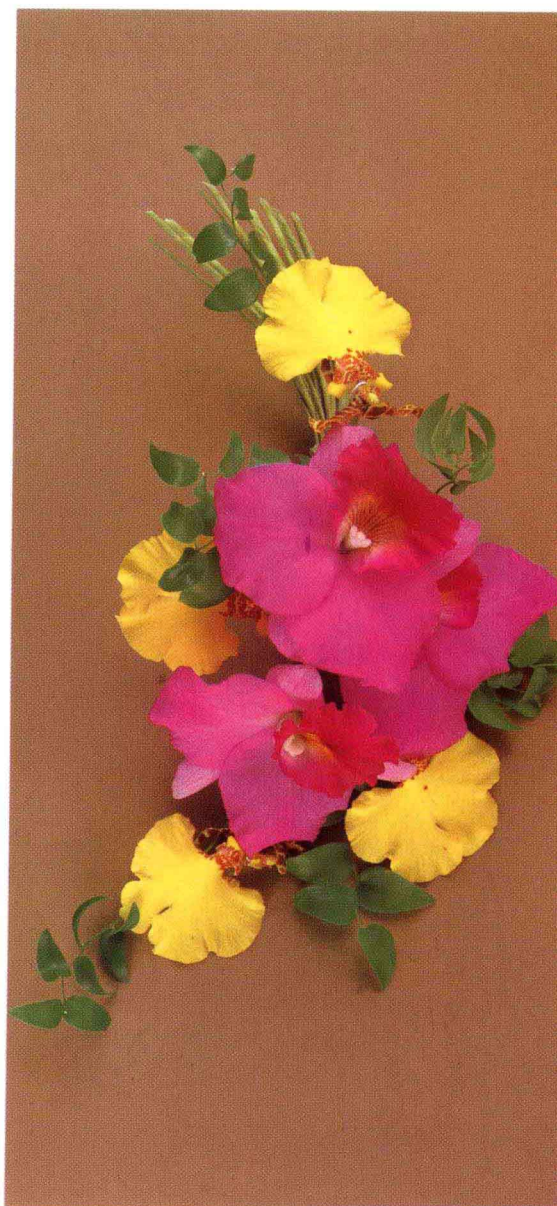
写真/国際園芸 撮影協力/日本洋蘭農協



■洋ランの利用

洋ランは、切花として最も多く利用されている。生活様式の洋風化に伴い、冠婚葬祭には不可欠のものとなりつつある。ブーケ、コーサージ、テーブル＝デコレーション、アレンジメントなどのほか、生花にも使われるようになった。また、花命の永いものが多く、花付株を鉢物として観賞するため、家庭用・進物用としての需要も多い。趣味園芸としては、品種の確かな美しいもの、変わったものが栽培され、楽しまれている。

(左) **ブライダル＝ブーケ** カスケード(懸崖)型。結婚式に花嫁が持つ。色物が使われているので、披露宴のみに利用する人もある。
(下) **コーサージ** オンシジウムと小輪のカトレヤを使った女性用の胸飾り。結婚披露宴やパーティなど盛装したときに着ける。

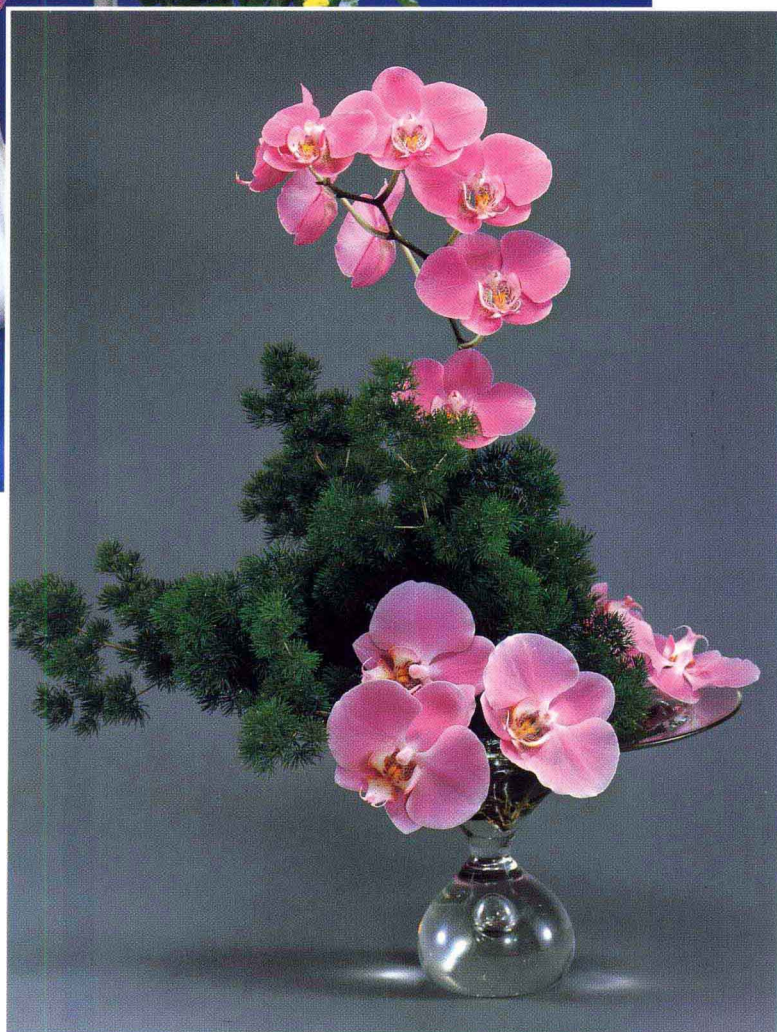




(上) **アレンジメント** トライアングル型の洋風生花。家庭の玄関や居間、またパーティの会場などによく調和する。

(右) **生花** ピンクのファレノプシスと緑のアスパラガス＝ミリオクラダスを合わせて、ガラス容器に生けた盛花。

作品制作／合田輝子・辻純子





カトレヤ ニグレラ 1～3花大輪。



カトレヤ ポーリングアナ 15～20花小輪。

●多花性の花の作出

大輪の花は咲く数が少なく、多花性の花は小輪である。大輪で多花性が理想であるが、その作出は難しい。一般に花数は相加平均にならず、花数の合計の平方根程度にしかない。例えば、大輪2花咲きと小輪23花咲きを交配すると、子供は $\sqrt{2+23} = 5$ 程度の花数、つまり、中輪の4～5輪咲きとなる。



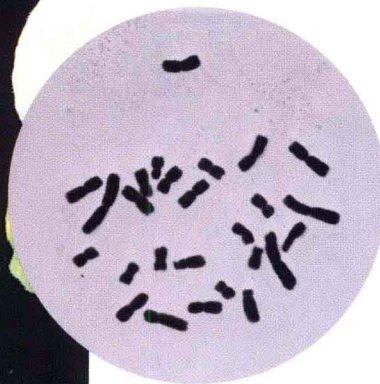
カトレヤ ペナン 3～4花中輪。

■洋ランの品種改良

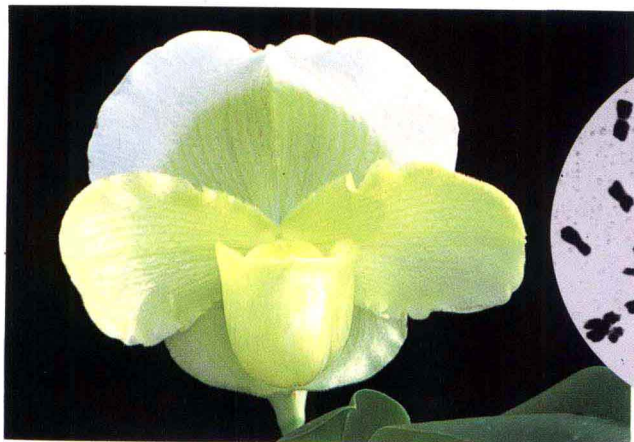
より美しい花、新しい色を求め、より生産性の高い品種を、との夢を果たすのが品種改良である。開花までに数年かかるランでは、忍耐強い努力と学問的裏付けが必要である。改良のためには、確かな目標を立て、親としての優良個体を選び、目的に合った交配を行って優良個体を選抜することを繰り返すのが常道である。また、倍数体の利用は、大きな、花形のよい花を作出するために有効である。



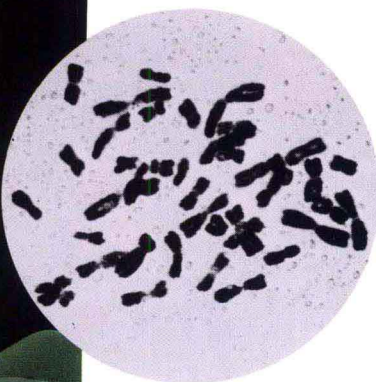
パフィオペジラム インシグネ サンデレ



(染色体。2倍体で、 $2n=26$)



パフィオペジラム ジアロ'ホワイト クラウン'



(染色体。3倍体に近い異数体)

●染色体と育種

遺伝子の中を含む染色体は、生物の種類によって形と数が一定している。受精のとき、両親から生存に必要な最低の1組(X)ずつを受け継ぐので、体細胞染色体数は $2n = 2X$ (2倍体)である。一般にこの染色体組が増えると、花は大きく、花弁幅は広く、肉厚となる。最近の優良品種のほとんどは、交配によって生じた3倍体(3X)や4倍体(4X)である。

●カトレヤ系黄色花の作出

カトレヤ系で濃黄色の良花を作出することは難しい。カトレヤの黄色は、紅紫色に対して劣性で子に黄色は出にくい。一方レリア属の黄色は、カトレヤ属に対して優性に遺伝するが、花が小さいか、形がよくない。黄色の代表品種レリオカトレヤ ダーナは、右に挙げた5種の原因が関係しているが、花を大きく、形をよくするために、カトレヤ唯一の大輪黄色種ドーウィアナを9回も繰り返し交配してようやく作出したものである。



レリオカトレヤ ダーナ'アンダーソン' 花径12cm。



カトレヤ ラビアータ 花径15～16cm。



カトレヤ ドーウィアナ 花径13cm。



カトレヤ ピカラー 花径10cm。



レリア ザンシナ 花径7cm。



レリア テネブロサ 花径16cm。



■東洋ラン

東洋ランは、中国・台湾・日本などに広く自生するシンビジウム属のランである。

われわれが培養しているたくさんの品種は、古くは数百年前に、自生種の中から、花変りや葉変りを選別、採取し、命名して、鉢に植えて楽しんできたものである。人工交配による著名な品種は、今のところまだ見当たらない。

このように、東洋ランは野生種であるため、自然の中から生まれた深い雅趣と高い気品を併せもち、いわゆる文人趣味の植物として、現在も多くの愛好者を得ている。

●日本シュンラン

東洋ランの中で、最も身近にわれわれの目に触れるのが日本シュンランで、北海道(奥尻島)以南の低い山林に自生する。ジジババとかホクロとかの愛称がその姿を示すように、小さくまとまって可憐である。花の色彩や葉芸の優れた品種が多いが、香りは少ない。

(左) **万寿** 美しい橙赤色の広弁花。葉は濃緑色の中垂れ葉で、全体の調和のよい名花。
(下) **紅陽** 紅橙色の鮮やかな色彩をもち、花つきが特によい。葉は黄味がかった緑色。





(上) **帝冠** ていかん 花は緑地に幅の広い白覆輪をかけ、葉にも同様の芸がある堂々とした大形の品種。

(下右) **翠苑** すいえん 透明度のある淡緑色の丸弁花で素心。葉はやや黄味をもつ細葉の中垂れ性。

(下左) **守門山** しゅもんざん 幅広で葉先に円味をもつ中立ち葉に、鮮明な黄白色の虎斑をかける。芽は帯紫緑色で、花は並物と同じ。

写真／栗原宏光・鈴木愛国

